

鹿児島県から採集されたアカイソガニ属 (短尾下目：モクズガニ科) の3種

前之園唯史

〒901-2111 沖縄県浦添市経塚1-4-5 102 株式会社かんきょう社

Abstract

Three varunid crabs of the genus *Cyclograpsus* (*C. integer*, *C. intermedius* and *C. longipes*) are reported based on specimens collected from the south coast of Kyushu and the Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. In this paper, new locality records are provided for *C. integer* from Tanegashima and Yakushima islands, and *C. longipes* from Kyushu and Tanegashima Island. The identifications of some previous literature records of the four species of *Cyclograpsus* in Japan, including *C. pumilio*, are also evaluated.

はじめに

モクズガニ科のアカイソガニ属 *Cyclograpsus* H. Milne Edwards, 1837 は、海岸の高潮線付近の転石下に生息するカニ類で、日本沿岸からはミナミアカイソガニ *C. integer* H. Milne Edwards, 1837, アカイソガニ *C. intermedius* Ortmann, 1894, アシナガアカイソガニ *C. longipes* Stimpson, 1858 およびマメアカイソガニ *C. pumilio* Hangai and Fukui in Hangai, Kitaura, Wada and Fukui, 2009 の4種が記録されている (Sakai, 1976; Hangai et al., 2009)。

筆者はこれまで、鹿児島県の薩摩半島と大隅半島および大隅諸島からアカイソガニ属の複数種を採集しているが、これらの地域から記録のない種が含まれていたため、採集標本に基づきここに報告する。また、日本国内のアカイソガニ属各種の分布記録についても若干のコメントを述べる。

材料と方法

本研究で使用した標本は、70% エタノールの液浸標本として琉球大学博物館、風樹館 (RUMF)

に収蔵されている。標本の大きさは甲幅 × 甲長で示した。標本はすべて筆者が採集したものであるため採集者の情報は省略した。なお、ミナミアカイソガニとアシナガアカイソガニは、参考標本として沖縄島産の標本も扱ったが、図示した標本はすべて鹿児島県産のものである。

Cyclograpsus integer H. Milne Edwards, 1837 ミナミアカイソガニ

(Fig. 1A–C)

標本 RUMF-ZC-7138, 1雄 (7.7 × 6.0 mm), 1雌 (6.0 × 4.7 mm), 鹿児島県種子島国上上古田港, 2021年8月14日; RUMF-ZC-7137, 1雄 (5.5 × 4.2 mm), 鹿児島県屋久島代海岸, 2014年9月16日。

参考標本 RUMF-ZC-7173, 3雄 (6.6 × 5.2, 7.0 × 5.4, 8.3 × 6.6 mm), 1雌 (6.7 × 5.5 mm), 沖縄島南城市知念岬, 2007年5月13日。

備考 検討標本は、次の特徴を持つことによってミナミアカイソガニと同定された (Sakai, 1976; Dai and Yang, 1991)。 (1) 甲の前側縁はほぼ完縁 (顕微鏡下では痕跡的な2つの切れ込みを確認できる); (2) 甲の側縁は、全体としては緩やかな弧状で、前側縁は後方に向かって広がり、後側縁は左右でほぼ平行; (3) 雄の眼下域の稜には3つの細長い顆粒が並ぶ (内側が最長, 外側が最短)。

現在、「ミナミアカイソガニ」の和名で呼ばれる種には、ブラジルをタイプ産地とする *C. integer* の学名が充てられている (Sakai, 1976)。この *C. integer* の新参異名には、*C. occidentalis* A.

Maenosono, T. 2022. Three species of the genus *Cyclograpsus* (Brachyura: Varunidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 48: 213–218.

✉ Kankyosha, 1-4-5 102 Kyozyuka, Urasoe, Okinawa 901-2111, Japan (e-mail: maenosono@kankyosha.co.jp).

Received: 17 February 2022; published online: 18 February 2022; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-039.pdf

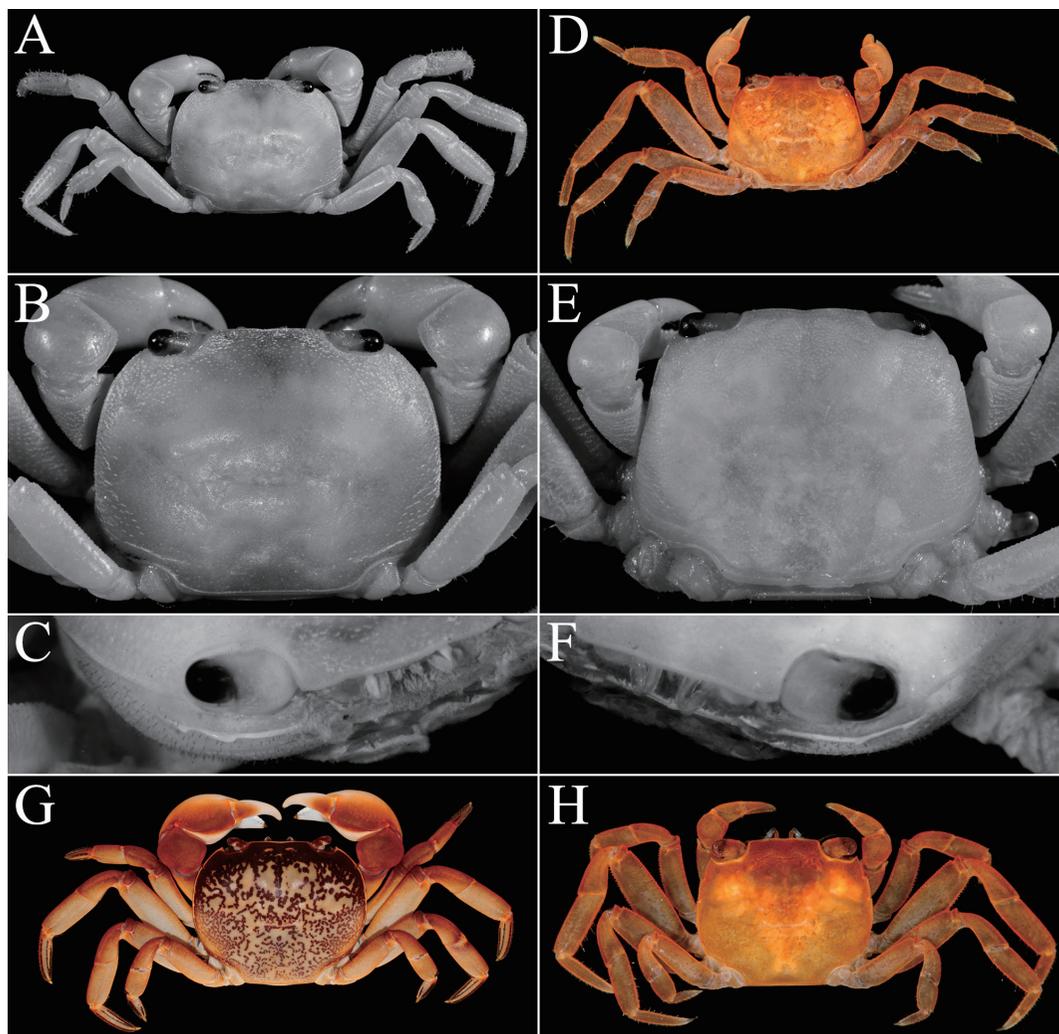


Fig. 1. A–C, *Cyclograpsus integer* (RUMF-ZC-7138, male, 7.7 × 6.0 mm); D–F, *Cyclograpsus longipes* (RUMF-ZC-7140, male, 5.7 × 4.7 mm); G, H, *Cyclograpsus intermedius* (G, RUMF-ZC-7194, male, 30.4 × 25.4 mm; H, RUMF-ZC-7172, female, 5.2 × 4.4 mm). A, D, G, H, entire animal; B, E, carapace; C, F, suborbital crest, dorsofrontal view (C, right; F, left).

Milne-Edwards, 1878 (タイプ産地：大西洋東部) と *C. parvulus* De Man, 1896 (タイプ産地：インドネシア) が含まれているため、その分布域は大西洋の西部と東部ならびにインド洋西部から南太平洋までとなっている (Griffin, 1968). しかし、これほど広大な分布域はアカイソガニ属の種のみならず海岸棲カニ類でも異例であり、異名関係にある3種の分類学的な位置付けを見直す必要があるかもしれない。

三浦 (2012) は奄美大島、藤田 (2016) は宮古諸島フデ岩、藤田 (2017) は宮古諸島水納島か

らそれぞれミナミアカイソガニを記録している。このうち三浦 (2012) と藤田 (2016) の標本は、本研究の検討標本や既往文献 (Sakai, 1976; Dai and Yang, 1991; 藤田, 2018a) で図示されているミナミアカイソガニと比較すると、甲の側縁が後方に向かって明瞭に広がり、歩脚も長い。これらの特徴から判断すると、三浦 (2012) と藤田 (2016) の標本はアシナガアカイソガニである可能性が高い。一方、藤田 (2017) の標本は次の4点がミナミアカイソガニと異なる (角括弧内はミナミアカイソガニの特徴)：(1) 額域と原胃域の境界に明

瞭なハの字型の稜を具える [通常, この稜は不明瞭. 確認できる場合も左右の稜は近接し, 緩やかな山型となる]; (2) 甲の前側縁の切れ込みが明瞭 [切れ込みは痕跡的]; (3) 甲幅 7.8 mm であるにも関わらず, 鉗脚の腕節内角が明瞭に突出し, 鉗部は小さい [このサイズであれば腕節内角は丸みを帯び, 雌でも鉗部はもう少し大きい]; (4) 第 2, 3 歩脚の指節が前節よりも明らかに長い [指節は前節とほぼ等長]. これらの特徴から藤田 (2017) の標本はヤエヤマヒメオカガニ *Epigrapsus politus* Heller, 1862 の小型個体 (Fig. 2) と判断される.

分布 大西洋の西部と東部ならびにインド洋西部から南太平洋まで (Griffin, 1968). 日本沿岸では, 和歌山県潮岬, 琉球列島の種子島 (新産地), 屋久島 (新産地), 奄美大島, 与論島, 沖縄島, 久米島, 池間島, 宮古島, 伊良部島, 下地島, 来間島, 石垣島, 西表島および大東諸島の南大東島から採集されている (Sakai, 1976; 永井, 1990; 諸喜田, 1990; 丸村・小阪, 2003; 藤田ほか, 2009; 成瀬, 2010; 藤田, 2018a, b; 本研究). これらの地域の他に宮古諸島のフデ岩と水納島からも記録されているが, それぞれミナミアカイソガニとは別の種である可能性が高い (備考参照).

Cyclograpsus longipes Stimpson, 1858

アシナガアカイソガニ

(Fig. 1D–F)

標本 RUMF-ZC-7192, 1 雌 (4.3 × 3.4 mm), 鹿児島県南さつま市坊ノ岬, 2021 年 12 月 31 日; RUMF-ZC-7140, 2 雄 (5.7 × 4.7, 5.8 × 4.7 mm), 鹿児島県南大隅町佐多辺塚, 2017 年 5 月 3 日; RUMF-ZC-7139, 1 雄 (4.0 × 3.2 mm), 鹿児島県種子島国上上古田港, 2021 年 8 月 14 日.

参考標本 RUMF-ZC-7168, 5 雄 (4.9 × 4.1, 6.6 × 5.4, 6.8 × 5.6, 8.3 × 6.7, 8.6 × 6.9 mm), 2 雌 (7.2 × 5.5, 7.4 × 5.8 mm), 沖縄島中城村安里, 2016 年 7 月 7 日.

備考 検討標本は, 次の特徴を持つことによってアシナガアカイソガニと同定された (Sakai,



Fig. 2. *Epigrapsus politus* (RUMF-ZC-7169, female, 10.5 × 8.7 mm, Okinawa Island).

1976; Dai and Yang, 1991; Li et al., 2019). (1) 甲の前側縁に 2 つの切れ込みを具える; (2) 甲の側縁は直線状で後方に向かって明瞭に広がる; (3) 額域と原胃域の境界にやや明瞭な稜を具える; (4) 歩脚が長い; (5) 雄の眼下域の陵には 3 つの細長い顆粒が並ぶ (内側が最長, 外側が最短).

山西 (1978) は大阪港で採集したアシナガアカイソガニ 1 個体を報告しているが, この報告以降, 大阪湾周辺において本種は確認されていない. 本種は南方系の種であり, 大阪湾以外の国内産地 (小笠原諸島, 九州南端, 琉球列島) を考えると飛地的な記録である. 大阪湾には本種に類似するマミアカイソガニも生息しているが (大阪湾海岸生物研究会, 2012, 2018), 山西 (1978) の記録はマミアカイソガニの記載 (Hangai et al., 2009) よりも前であるため, 標本の再確認が望まれる.

分布 日本, 台湾, 南シナ海, インドネシア, フィジーおよびフランス領ポリネシア (Li et al., 2019). 日本沿岸では小笠原諸島の父島 (タイプ産地) と西之島, 大阪湾 (備考参照), 鹿児島県の薩摩半島と大隅半島 (それぞれ新産地), 琉球列島の種子島 (新産地), 与論島, 沖縄島, 宮古島, 石垣島, 西表島および与那国島から採集されている (Sakai, 1976; Takeda and Kurata, 1977; 山西, 1978; 丸村・小阪, 2003; 成瀬, 2010; 本研究). さらに奄美大島と宮古諸島フデ岩からのミナミアカイソガニの記録も本種である可能性が高い (ミナミアカイソガニの備考参照).

Cyclograpsus intermedius Ortman, 1894

アカイソガニ

(Fig. 1G, H)

標本 RUMF-ZC-7194, 1 雄 (30.4 × 25.4 mm), 1 雌 (18.0 × 14.9 mm), 鹿児島県指宿市知林ヶ島, 2015 年 5 月 4 日; RUMF-ZC-7193, 1 雄 (破損 × 7.3 mm), 1 雌 (12.8 × 10.5 mm), 鹿児島県指宿市開聞花瀬海岸, 2006 年 12 月 31 日; RUMF-ZC-7172, 3 雄 (8.0 × 6.8, 10.6 × 9.0, 11.8 × 9.7 mm), 3 雌 (5.2 × 4.4, 6.6 × 5.5, 13.0 × 10.8 mm), 鹿児島県南大隅町佐多辺塚, 2017 年 5 月 3 日; RUMF-ZC-7171, 2 雄 (8.5 × 7.2, 14.1 × 11.7 mm), 鹿児島県種子島国上上古田港, 2021 年 8 月 14 日; RUMF-ZC-7170, 3 雄 (5.9 × 4.9, 10.3 × 8.4, 11.6 × 9.6 mm), 2 雌 (5.1 × 4.3, 5.2 × 4.4 mm), 鹿児島県屋久島田代海岸, 2014 年 9 月 16 日.

備考 本種は, ある程度の体サイズ(およそ甲幅 15 mm) 以上であれば大きさや甲の斑紋によって容易に同定できるが, マメアカイソガニと同サイズ(甲幅 10 mm 以下)の個体では甲の斑紋もなく同定には注意が必要である. Hangai et al. (2009) は, マメアカイソガニの記載の際にアカイソガニとの比較を行い両種それぞれの特徴を挙げている. しかし本研究のアカイソガニの標本では, Hangai et al. (2009) が示したアカイソガニの特徴をすべて持つのは中型以上の個体に限られ, 小型個体では一部の形質がマメアカイソガニと共通(もしくは近似)していた. Hangai et al. (2009) が挙げたアカイソガニの特徴のうち, 小型個体で一致しなかったものは次の通りである(角括弧内は小型個体): (1) 甲の背面は平滑[額域周辺および甲の前側縁周辺は細かい顆粒で覆われる]; (2) 歩脚の長節と前節の後縁は無毛[長節はほぼ無毛だが, 前節後縁には剛毛が生える]; (3) 歩脚の長節の前縁と後縁は完縁[前・後縁ともに尖った顆粒が並んだ鋸歯状]. したがって, これらの形質のみでは小型のアカイソガニとマメアカイソガニは識別できず, その他の形質も併せて総合的に判断する必要がある. なお, 駿河湾のマメアカイソガニ個体群では, 雄の 50% 成熟サイズが甲幅 3.98 mm, 雌の成熟サイズが 6.39 mm と推定されており(土井ほか, 2021), このくらいのサイズのアカイソガニは明らかに未成熟であるため, 雄の鉗部(アカイソガニでは肥大しない),

雄の第 1 腹肢(アカイソガニでは未発達), 雌の腹節(アカイソガニでは広がり不十分)なども 2 種の識別形質として有効かもしれない.

アカイソガニの原記載(Ortmann, 1894)では, 奄美大島産の 16 標本とインド洋産の 2 標本が扱われており, これら 18 標本が本種のシタイプであるため(Komai, 1999), タイプ産地は奄美大島とインド洋である. 本種は九州以北の転石海岸で普通に見られる種であり, 市販の図鑑にも頻繁に掲載されている(三宅, 1983; 和田, 1995; 渡部, 2014; 鍋島, 2016; 吉崎, 2018). しかしながら, タイプ産地の一つである奄美大島からの採集記録は, 原記載を除けば岸野ほか(2001)の 1 地点 3 標本のみであり, 奄美諸島における陸棲・陸水棲甲殻類の総合的な調査(Shokita and Nishijima, 1976; 武田, 1990; 諸喜田ほか, 2003; 藤田ほか, 2009; 三浦, 2012; 三浦・三浦, 2015)では確認されていない. したがって, 奄美大島では本種の個体数が極めて少ない, または分布が局所的である可能性も考えられる. しかしその一方で, 本種の原記載は近年の記載基準に比べて形態情報が少なく, さらに奄美大島産の *C. intermedius* はこれまで図示されたことがないため(Ortmann 1894; Komai, 1999; 岸野ほか, 2001), 「アカイソガニ」の和名で呼ばれている九州以北の種と奄美大島の *C. intermedius* が同一種なのか明らかではない. また, インド洋の *C. intermedius* も似たような状況であり, 本種のインド洋からの採集記録は原記載のみである. さらに原記載では, インド洋産の標本は歩脚の剛毛の生え方が異なっていることが記されているため, シタイプが同一種で構成されているのかについても疑問である. これらの疑問の解明にはシタイプの再確認が必要である.

ところで, 本種の分布域に沖縄諸島を含めている文献も多いが(三宅, 1983; 和田, 1995; 渡部, 2014; 鍋島, 2016; 吉崎, 2018), これらの文献では記録の根拠や標本の有無が示されていない. また筆者は 15 年以上にわたって沖縄県を対象地域とした甲殻類調査を行っているが, 沖縄県で本種を確認したことはない. このように沖縄諸

島のアカイソガニについては標本に基づく記録が必要である。

分布 韓国, 日本, 台湾およびインド洋 (Dai and Yang, 1991). 日本沿岸では北海道から沖縄諸島まで (三宅, 1983). ただし, 分類学上の疑問や記録の確実性など不明な点が多い (備考参照).

Cyclograpsus pumilio Hangai and Fukui in Hangai, Kitaura, Wada and Fukui, 2009

マメアカイソガニ

標本 本研究では標本を扱っていない。

備考 本種は, 大澤ほか (2017) では「*C. pumilio* Hangai and Fukui in Hangai, Kitaura, Wada and Fukui, 2009」と表記され, その他の多くの文献では「*C. pumilio* Hangai and Fukui, 2009」と表記されている。また, 酒井 (2014) では明示されていないものの, その論旨から「*C. pumilio* Hangai, Kitaura, Wada and Fukui, 2009」と表記するよう提言されている。このように引用表記が統一されていない原因は, 本種の原因論文 (Hangai et al., 2009) において「*Cyclograpsus pumilio* Hangai and Fukui, new species」と表記されているものの, 命名者 (学名の責任著者) が飯開氏と福井氏の2名のみであるという説明がないためである。このような場合, 飯開氏と福井氏のみを命名者と認めるのか, それとも Hangai et al. (2009) の著者全員が命名者となるのかによって表記が異なるが (ICZN, 1999: 条 50.1, 勧告 50A; Sakai, 2014; De Grave and Ng, 2021), 前者の場合であっても「Hangai and Fukui (2009)」という文献はないため, 大澤ほか (2017) のように文献名も併記するのが適当であろう (De Grave and Ng, 2021)。

中岡・和田 (2021) は能登半島, 九州および種子島からマメアカイソガニを記録している。しかし, 同文献の種子島産の標本は, 既往文献 (Hangai et al., 2009; 和田, 2012; 締次, 2013; 桑原・林, 2014; 小山ほか, 2018; 山下ほか, 2020a, b) で図示されているマメアカイソガニよりも歩脚が長く (前方に向いた第1, 2歩脚の長節の末端が額の前縁を越える), 歩脚の長節の前

縁末端部 (末端近くの段より遠位) の突出が弱い (マメアカイソガニは明瞭に突出する)。これらの特徴はアシナガアカイソガニと一致し, 種子島にはアシナガアカイソガニも分布しているため (本研究), 中岡・和田 (2021) で報告された種子島産の標本については再確認が望まれる。また, 和田 (2022) でマメアカイソガニとして図示されている個体は, 甲背面に薄い斑紋があること, 歩脚が太いことなどからアカイソガニだと考えられる。

分布 日本固有種。能登半島 (日本海側) および房総半島 (太平洋側) から種子島まで採集記録があるが (山下ほか, 2020b; 中岡・和田, 2021), 種子島からの記録については再検討が必要であろう (備考参照)。

謝辞

成瀬 貫氏 (琉球大学熱帯生物圏研究センター) には標本の収蔵に関してご協力いただき, 前之園麻峰子氏には一部の採集調査に同行していただいた。以上の方々に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- Dai, A.-Y. and S.-L. Yang, 1991. Crabs of the China Seas. China Ocean Press, Beijing.
- De Grave, S. and P. K. L. Ng, 2021. The curious case of “innies”: Articles 50.1, 50.1.1 and the citation of authorities in Decapoda Crustacea—a way forward. *Zootaxa*, 4963: 163–172.
- 土井 航・森田 進・武藤文人, 2021. 駿河湾奥部の磯浜海岸におけるマメアカイソガニの成長と繁殖. *日本ベントス学会誌*, 76: 31–38.
- 藤田喜久, 2016. 宮古諸島フデ岩の陸棲・半陸棲十脚甲殻類. *宮古島市総合博物館紀要*, 20: 37–52.
- 藤田喜久, 2017. 宮古諸島水納島の十脚甲殻類相. *宮古島市総合博物館紀要*, 21: 91–110.
- 藤田喜久, 2018a. 宮古諸島池間島・大神島・来間島の十脚甲殻類. *宮古島市総合博物館紀要*, 22: 55–75.
- 藤田喜久, 2018b. 標本を基にした宮古諸島の十脚甲殻類記録. *宮古島市総合博物館紀要*, 22: 77–92.
- 藤田喜久・鈴木廣志・松岡卓司・永江万作・組坂遵治, 2009. 琉球列島の飛沫転石帯に生息する十脚甲殻類. 安村茂樹 (編), 南西諸島生物多様性評価プロジェクトフィールド調査報告書. Pp. 35–66, 世界自然保護基金ジャパン, 東京.
- Griffin, D. J. G., 1968. A new species of *Cyclograpsus* (Decapoda, Grapsidae) and notes on five others from the Pacific Ocean. *Crustaceana*, 15: 235–248.
- Hangai, R., J. Kitaura, K. Wada and Y. Fukui, 2009. A new species of *Cyclograpsus* (Brachyura: Varunidae) from Japan, co-occurring with *C. intermedius* Ortmann, 1894. *Crustacean Research*, 38: 21–27.

- ICZN [International Commission on Zoological Nomenclature], 1999. International Code of Zoological Nomenclature. 4th Edition. International Trust for Zoological Nomenclature, London.
- 岸野 底・野元彰人・木邑聡美・米沢俊彦・和田恵次, 2001. 奄美大島の汽水産カニ類. 南紀生物, 43: 125-131.
- Komai, T., 1999. Decapod Crustacea collected by L. Döderlein in Japan and reported by Ortmann (1890-1894) in the collection of the Musée Zoologique, Strasbourg. In: T. Nishikawa (ed.), Preliminary Taxonomic and Historical Studies on Prof. Ludwig Döderlein's Collection of Japanese Animals made in 1880-81 and deposited at Several European Museums. Report of Activities in 1997-8 supported by Grant-in-Aid for International Scientific Research (Field Research) No. 09041155. Pp. 53-101.
- 小山彰彦・若林瑞希・乾 隆帝・鬼倉徳雄, 2018. 山口県および九州北岸におけるマメアカイソガニの分布と生息環境. 日本生物地理学会会報, 72: 242-246.
- 桑原友春・林 成多, 2014. 島根県におけるマメアカイソガニの記録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 13: 13-18.
- Li, J.-J., J.-W. Hsu, N. K. Ng and H.-T. Shih, 2019. Eight new records of crabs (Decapoda, Brachyura: Sesarmidae, Varunidae) from the coasts of Taiwan. Crustaceana, 92: 1207-1230.
- 丸村眞弘・小阪 晃, 2003. 永井誠ニコレクション カニ類標本目録. 和歌山県立自然博物館, 海南.
- 三浦知之, 2012. 奄美大島住用川河口域に生息する甲殻類と貝類の記録. Nature of Kagoshima, 38: 55-61.
- 三浦知之・三浦 要, 2015. 加計呂麻島の海岸湿地に生息する甲殻類と貝類の記録. Nature of Kagoshima, 41: 209-222.
- 三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 II. 保育社, 大阪.
- 鍋島靖信, 2016. 短尾下目 (カニ下目). 今原幸光 (編著), 新装改訂版 フィールド版 写真でわかる磯の生き物図鑑. Pp. 122-135, トンボ出版, 大阪.
- 永井誠二, 1990. 和歌山県沿岸のカニ類相 IV. 南紀生物, 32: 115-119.
- 中岡由起子・和田恵次, 2021. 礫浜性マメアカイソガニ (モクズガニ科) の能登半島と九州沿岸からの記録. Cancer, 30: 49-56.
- 成瀬 貫, 2010. 琉球大学資料館 (風樹館) 収蔵資料目録第3号 琉球大学資料館 (風樹館) 甲殻類標本目録. 琉球大学資料館 (風樹館), 西原.
- Ortmann, A. E., 1894. Die Decapoden-Krebse des Strassburger Museums, mit besonderer Berücksichtigung der von Herrn Dr. Döderlein bei Japan und bei den Liu-Kiu-Inseln gesammelten und zur Zeit im Strassburger Museum aufbewahrten Formen. VIII. Theil. Abtheilung: Brachyura (Brachyura genuina Boas) III. Unterabtheilung: Cancroidea, 2. Section: Cancrinea, 2. Gruppe: Catametopa. Zoologische Jahrbücher, Abtheilung für Systematik, Geographie und Biologie der Thiere, 7: 683-772, pl. 23.
- 大阪湾海岸生物研究会, 2012. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相—2006～2010年の調査結果. 自然史研究, 3: 211-224.
- 大阪湾海岸生物研究会, 2018. 大阪湾南東部の岩礁海岸生物相—2011～2015年の調査結果. 自然史研究, 4: 17-38.
- 大澤正幸・桑原友春・倉田健悟, 2017. 日本海沿岸からのフジテガニの初記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 20: 213-218.
- Sakai, K., 2014. On the authorship of the species *Eriocheir ogasawaraensis* (Decapoda, Brachyura, Varunidae). Crustaceana, 87: 123-126.
- 酒井勝司, 2014. オガサワラモクズガニ *Eriocheir ogasawaraensis* の命名者について (十脚目・短尾下目・モクズガニ科). タクサ, 37: 28-30.
- Sakai, T., 1976. Crabs of Japan and the Adjacent Seas. Kodansha, Tokyo.
- 締次美穂, 2013. 三重県におけるマメアカイソガニの記録. 南紀生物, 55: 159-162.
- 諸喜田茂充, 1990. 西表島の陸水産甲殻類相と分布. 平成元年度西表島崎山半島地域調査報告書 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究. Pp. 305-317, 環境庁自然保護局, 東京.
- 諸喜田茂充・藤田喜久・長井 隆・Salim, M. I.・新城光悦, 2003. 奄美大島住用マングロープ域と流入河川における甲殻類の生態分布と現存量. 亜熱帯総合研究所 (編), マングロープに関する調査研究報告書. Pp. 113-124, 亜熱帯総合研究所, 那覇.
- Shokita, S. and S. Nishijima, 1976. Faunal list of inland-water malacostraca of Amami Group, the Ryukyu Island. In: S. Ikehara (ed.), Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands (II). Pp. 31-38, University of the Ryukyus, Naha.
- 武田正倫, 1990. 奄美大島産の陸水性カニ類. 昭和63年度奄美大島調査報告書 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究. Pp. 277-285, 環境庁自然保護局, 東京.
- Takeda, M. and Y. Kurata, 1977. Crabs of the Ogasawara Islands IV. A collection made at the new volcanic island, Nishinoshima-shinto, in 1975. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, 3: 91-111.
- 和田恵次, 1995. 短尾下目. 西村三郎 (編), 原色検索日本海岸動物図鑑 II. Pp. 379-418, pls. 101-118, 保育社, 大阪.
- 和田恵次, 2022. 礫浜の生物保全上の価値. わだつみ, 4: 1-5.
- 和田太一, 2012. 徳島県の礫浜海岸における四国初記録のキタフナムシとマメアカイソガニ. 徳島県立博物館研究報告, 22: 69-78.
- 渡部哲也, 2014. 海辺のエビ・ヤドカリ・カニハンドブック. 文一総合出版, 東京.
- 山西良平, 1978. 大阪港でアシナガアカイソガニ. Nature Study, 24: 59.
- 山下龍之丞・乾 直人・山川宇宙・矢野優貴, 2020a. 神奈川県および静岡県伊豆半島初記録のマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* Hangai & Fukui, 2009. 神奈川自然誌資料, 41: 21-26.
- 山下龍之丞・是枝伶旺・古橋龍星・齊藤洪成・碧木健人・山川宇宙, 2020b. 千葉県房総半島および鹿児島県薩摩半島初記録のマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* Hangai and Fukui, 2009. Cancer, 29: 39-44.
- 吉崎和美, 2018. 天草のカニ類写真図鑑 天草の海辺で見つけたカニたち. 一粒書房, 半田.